

途中で投げ出さずに査読してくださった方、お粗末さまでした……。



表記揺れや変換ミスが残っていたと思います。

われながら酷いテキストだと思っています。何処の馬の骨のような小説です。

全然青春小説でも家族小説でもないです。

この小説を本にしてくださった暁には、

……一生ついていきます……。

かなり荒削りな作品ですが、どうしてもこの小説を出発点としたいという希望があります。小学館が第一志望ですが、五社くらいなら断られてもへこたれません。

三島由紀夫は「小説には何でも詰め込み得る」と言っていますが、この小説はメタフィクションと物語理論を掛け合わせるといって純創作論的な内容です。(メタフィクションだから) 大体作中で解説もやってしまっているのですが、語りの大枠の構造は説明していません。「テキスト」とは織物という意味なんですが、このテキストにも縦系と横系があります。

語りの構造は DFA (Deterministic Finite Automaton) になっています。

語りの手の名のタップルを仮りに、 $(t, 2, D)$ とします。上の図を見てください。小説上の配列はセクション一から四をそれぞれ左から右に向かって進み、 $(S4, D)$ で終了します。物語の構造はそれとは別で、開始記号(Start)から出発してテーブル上の該位置の指示に従い、終了記号(accept)に到着するまでその作業を繰り返します。開始記号がある D 行 3 列の指示は、 $S=1, N(2)$ 、つまりセクション一の語り手 2 です。ので、2 行 1 列に進みます。すると今度は $S+1$ なのでセクションのみ一つ増やし、2 行 2 列に進みます。以下同様。章立てに対応する要素は十二ありますが、最後の一つは容易に察しがつくように、 N です。C でのコード例は [こちら](#)。

t	2	D
$S+=1$	$S+=1$	$S+=1$
$S+=1$	$S+=1$	$S+=1$
$S+=1$	$S+=1$	$S=1, N(2), \text{Start}$
$S=1, N(D)$	$S=1, N(t)$	accept

大体、作中で説明している通り十二の要素の文字数はフィボナッチになっている、ファースト・ドラフトでは誤差は一枚以内に抑えてあったんですが、誤変換を直しているうちに多分ずれました。

まだ参考書目は作っていませんが、作中、篠田訳の「純理」、平凡社ライブラリーの「シュレーバー回想録」を始めとして相当量の引用があります。

不肖でございますが、そろそろかのメフィストがその役目を終えた模様の昨今、一文芸ファンとしてさらには大変期待させていただいている次第です。御健闘をお祈り申し上げます。

$S1$
 $S2$
 $S3$
 $S4$

二千五年十二月晦日の午後、新大久保駅前のルノワール窓際席にて。
見面沢拝。